

大会報告
2004年2月29日
三重県関町

第17回東海クラブカップ リレーオリエンテーリング大会

小野盛光

ちょっと冷たい春雨の中で、接戦を制したのは OLC ルーパーと椋山女学園。

更衣室は急遽、関ロッジへ！

あいにく小雨が降る大会になってしまった。会場は三重県関町の観音山公園。平成10年度東海・西日本大会などで使われた「東海道関宿」に対し東海道（国道一号線）を挟んで西側に位置する小高い丘に作られた公園である。あと一ヶ月もすれば桜見物でにぎわう雰囲気漂わせていた。会場付近の斜面の様子をみても、きょうはかなり急斜面でレースをすることになることをうかがわせた。急遽、町とロッジのご配慮で関ロッジに一室を更衣室として使わせていただき、狭いながらも雨と寒さが完全にしのげるのはいへんありがたい。町長さんのご挨拶をはじめ、教育長さん、体育協会会長さんとそうそうの方々が開会式に出席され、関町の理解の深さを感じられた。

カップ争いは2走で激戦

東海クラブカップリレーオリエンテーリング大会は東海地区オリエンテーリングクラブ連絡協議会に加盟するクラブ対抗で争われるクラブAとクラブW（女性のみのクラス）に与えられる2つのカップがある。その他に加盟クラブ外から参加可能な一般A、一般BとクラブBがある。今年は関西に隣接した地域で開催したこともあり、一般クラスには大阪からの参加が目立った。しかも、静岡 OLC の参加もあり、なかなかの盛況であった。

クラブAは最近三河 OLC が7連勝、クラブWは浜松 OLC が2連勝となっており今年も連勝を伸ばすかが注目される。大会当日は WOC2004 のセレクションレースと重なり、有力選手が参加できず接戦が予想された。各クラブとも当日メンバーをかなり入れ替えて臨んだ。10時10分クラブA、一般Aがスタート、10時20分クラブW、クラブB、一般Bがスタート。コースは最初大きなループを回りビジュアルに現れ、さらに一周しゴールする。クラブA、一般Aは3.2~3.4km登距離250~270mのコースであり、クラブW、クラブB、

一般Bは2.4~2.5km、登距離160~180mのコース。ルーパーは新メンバー山口尚宏がよく走り46分16秒の2位でつないだ。続いて、浜松 OLC の武藤雅昭は47分51秒の4位。三河 OLC はメンバー編成に苦しみ50歳の内藤ヒロオを起用53分15秒の5位と差をつけられたもののメンバーが揃わないなかでもベストの選択であった。

クラブWは椋山Aの西脇千可子が39分18秒という好タイムで他チームに20分以上の圧倒的な差をつけて2走へつなく。椋山Cと三河が接戦で2走へ。

クラブAの2走では三河の稲葉英雄が40分12秒、浜松の北原祐が43分46秒、ルーパーの野中俊樹が45分48秒で走り、1位に浜松 OLC が浮上、続いてルーパーが27秒差、三河がトップと1分50秒差と迫って、激戦の様相。

クラブWは三河の川島亜希子が49分40秒で1時間11分47秒かかった椋山Aを逆転、3位に椋山Bが柴田理恵の50分11秒の走りで浮上。差は椋山Aが1分2秒、椋山Bはトップと3分22秒と優勝争いは混沌。

クラブAの上位3チームの3走は落合公也、河合芳尚、鈴木正文といずれも37歳のベテランで48分台から50分台で走り、接戦でゴール、優勝は95年以来7回目の OLC ルーパーへ。2位は三河 OLC、3位は浜松 OLC であった。

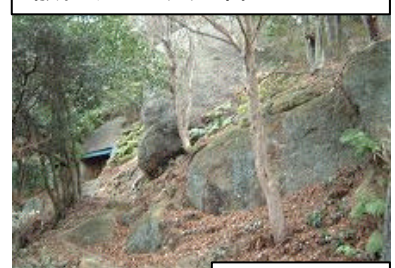
クラブWの3走は椋山現役の鈴木千佳、腰山いづみが1時間00分台で走り、椋山OGであり、三河の伊村を抑えて、1,2フィニッシュ。1990年以来2回目の優勝。

インカレにも期待

インカレ直前ということもあり、東海地区オリエンテーリングクラブ連絡協議会所属の名古屋大学、静岡大学、椋山女学園の他に大阪大学や大阪市立大学の参加があり、優勝した椋山女学園以外も常に上位で戦い、インカレに期待が持てる結果であった。

(小野盛光)

散在する巨大な岩



つり橋



クラブAのコース